

令和3年 12月定例会

福井県議会だより

第35号

審議の様子は
YouTubeを
ご覧ください



定例会の概要

12月定例会は、11月30日に開会し、12月24日までの25日間にわたって審議を行いました。

開会日には、議員表彰決議案を可決し、福井県議会議員表彰規程に基づき、5名の議員が永年勤続表彰を受けました。

また、9月定例会から継続審査となっていた令和2年度決算の認定2件と、議員および職員の期末手当の引き下げに係る条例改正案1件を可決するとともに、長期化するコロナの影響を踏まえた「国の農業政策に関する意見書(案)」を可決しました。

今定例会では、コロナ対策について、第6波に備えたPCR検査体制やワクチンの3回目接種などの感染防止対策、ワクチン・検査パッケージ活用への対応のほか、コロナ禍での中小企業支援や経済対策等について質疑がなされました。また、北陸新幹線関連では、敦賀以西の整備に向けた財源の確保や関西圏との連

携強化等の機運醸成をはじめ、敦賀開業を見据えた2次交通の充実、地域鉄道の維持・存続に必要な行政支援や経営統合の必要性などについて議論が交わされました。

このほか、令和4年度当初予算編成方針、嶺南Eコースト計画や共創会議における国の取り組み案への評価、子育て支援策、大雪対策、教育政策など県政全般にわたり広範な議論を行いました。

このような審議を経て、閉会日には、追加上程された補正予算案1件と収用委員会委員の任命同意に係る議案1件を含めた知事提出議案18件を可決または同意しました。また、原油価格高騰対策や拉致問題の早期解決、豪雪地帯対策特別措置法の特例措置の延長等を求める意見書案3件を可決するとともに、請願5件についても採決を行い、今定例会に付議された案件の審議を終了しました。

12月定例会で可決された4つの意見書について

12月定例会では、米価下落や原油価格高騰への対策など4つの意見書が可決されました。そもそも「意見書」とは何か、また、今回の意見書はどういった内容かをご紹介します。

意見書とは

国などに対して、地方が抱える課題を訴え、その解決に向けた政策の実施等を要請するものであり、議会の意思をまとめた文書です。地方自治法に基づいて議員が発案し、議決後、国会や関係省庁等に提出することができます。本県議会では、福井県選出の国会議員に対しても提供し、意見書の内容が実現されるよう要請しています。

【参考】議会の意思を「決議」としてまとめることがあります。決議とは、議会の意思を対外的に表明する行為で、議員が発案して本会議に諮りますが、意見書とは異なり、法的根拠に基づくものではありません。

今回の4つの意見書はどんな内容か

○国の農業政策に関する意見書

農業従事者等の著しい高齢化・減少、さらにコロナ禍における大幅な米価下落など、農業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。このため、政府買入や消費の拡大支援など米価下落に対する抜本的な対策や、国内生産の維持・拡大策、農家の所得向上策について国に求めています。

○原油価格高騰に係る対策を求める意見書

原油価格の高騰は、ガソリンに限らず食料品などあらゆる物価の上昇を招き、県民生活や地域経済に大きな打撃を与えています。このため、国民生活の安定に向けた施策や生活困窮者に対する支援の充実、事業者に対する金融・税制面などの総合的な支援について国に求めています。

○全ての拉致被害者の即時一括帰国の実現と拉致問題への国民理解を深める取組の推進を求める意見書

拉致問題は、発生から40年以上が経過した現在も多くの国民を不法に抑留し続け、いまだ安否に関する説明はなく、真相の究明に至っていません。このため、国際社会との連携強化による全ての拉致被害者の即時一括帰国の実現や、特に若い世代に対する啓発推進について国に求めています。

○豪雪地帯対策特別措置法の改正等に関する意見書

豪雪地帯対策特別措置法に基づき、雪害防除等の対策が進み冬季の生活環境の向上が図られていますが、基幹道路の整備や公立小中学校等の施設整備といった特例措置が令和3年度末までとなっています。このため、特例措置の10年間延長や、さらに、豪雪地帯特有の課題に柔軟に対応できる財政支援制度の創設等を国に求めています。



審議の様子は
YouTubeを
ご覧ください

代表質問

県会自民党 西本 正俊 議員



知事の政治姿勢について

- ・ 昨年7月に策定した長期ビジョンに関し、県議会では、社会経済情勢の変化を注視し、適宜、政策・施策に反映するよう求める付帯決議をつけているが、コロナを契機とした生活様式や行動変容、急速なデジタル化、DX推進が今後の県民生活や社会経済にもたらす影響について知事の見解を伺うとともに、長期ビジョンの見直しの必要性について所見を伺う。

原子力・エネルギー行政について

- ・ 10月に実施された原子力総合防災訓練の実施結果と新たに明らかになった課題について伺うとともに、それらを今後どのように広域避難計画へ反映させていくのか、知事の所見を伺う。

県会自民党 大森 哲男 議員



観光および移住・定住政策について

- ・ GoToトラベル等の今後の進め方、制度終了後の反動を見据えた対策について伺うとともに、コロナ収束後のインバウンドを含めた観光戦略について知事の所見を伺う。

土木行政について

- ・ 大雪対策について、取組状況とその実効性に対する認識を伺うとともに、今冬に向けた意気込みを伺う。

民主・みらい 北川 博規 議員



知事の政治姿勢について

- ・ 当初予算編成にあたり、長期ビジョンの推進とコロナ対策のバランスをどのように考え、特にどういった政策に重点を置くのか、知事の所見を伺う。

福祉行政について

- ・ 児童相談所の体制強化に関し、これまで取り組まれてきた強化策について、その成果と課題を伺うとともに、激増する虐待事案に迅速に対応するため、更なる組織体制の強化を検討すべきと考えるが、所見を伺う。

福井県議会議員表彰

11月30日に、永年勤続議員の表彰式を行いました。表彰の内容は、以下のとおりです。

- ①福井県議会議員表彰 ②全国都道府県議会議長会表彰
③知事感謝状贈呈



永年勤続10年



西畑 知佐代 議員



小寺 惣吉 議員



島田 欽一 議員



細川 かをり 議員



宮本 俊 議員

一般質問

民主・みらい 野田 哲生 議員



- 福井の繊維産業
 - (1)繊維を活かした産地活性化
 - (2)繊維産業からファッションのまち福井へ
 - (3)ファッション観光の可能性

繊維の産地活性化とファッションのまち福井を目指して官民連携の取組を!

県会自民党 清水 智信 議員



- 多世代同居近居支援強化
- アリーナ構想
- 繊維業界が連携した「福井ブランド」を
- 米の販路拡大
- 不妊治療と仕事の両立

三世帯同居近居推進すべき!アリーナ構想、米の販路拡大について提言した。

県会自民党 山浦 光一郎 議員



- コロナ対策
- 災害時のレスキューホテル確保
- 不登校の子供たちの出欠や成績評価
- 新エネルギー産業の振興

全ての子どもに合った様々な学習方法を提供できるように頑張ります。

県会自民党 兼井 大 議員



- 自然体験型観光コンテンツ
- 農山漁村への移住・定住
- 農林水産業の「特定地域づくり事業協同組合」活用
- アニメ「2.43清陰高校男子バレー部」を使ったまちおこし
- 子育て支援

「選ばれる福井県」の「選ばれる農山漁村」への移住・定住について質した。

県会自民党 小堀 友廣 議員



- ナショナルサイクルルート
- 教育の諸問題

自転車の活用により環境改善・まちづくり・地域おこし・観光振興を目指すべき。

県会自民党 小寺 惣吉 議員



- 「いちほまれ」のブランド戦略
- ふるさと教育
- 大雪対策

いちほまれPR評価と活動方針は。国道8号の大雪対策は強化されたか?

県会自民党 山本 建 議員



- 新型コロナウイルス感染症対策
- 福井県総合防災訓練
- 交通安全対策
- ふくいワインカレッジ

新型コロナウイルス対策に引き続き取り組みます。

県会自民党 笹岡 一彦 議員



- コロナ後の国家財政と地方財政の立て直しを
- 関西における北陸新幹線早期大阪開業運動の強化策を
- 新幹線開業前後のソフト事業補助制度新設を
- 地方鉄道維持に国の新税制創設を求めよ
- 原子カレスキュー隊国有化と国際レスキュー隊の地元設立を

地方議員でも日本と世界に貢献できる仕事をすると立志してから18年半の集大成。

公明党 西本 恵一 議員



- 高卒資格が取得できるフリースクール支援
- 協同労働
- 健康福祉行政
- 来年度予算編成方針
- コロナや世界経済の影響

新しい働き方である「協同労働」の周知と相談窓口など推進体制を図ってほしい。

日本共産党福井県議会議員団 佐藤 正雄 議員



- 「灯油も高い!食品も高い!」一今こそ暮らしを守る県政に
- 新しい年をコロナを抑える年とするためには
- 「県都ブランドデザイン」は新たなムダづかいとならないか
- 表現の自由と教育行政に関して

大きな団体の声だけでなく、生活困窮者、年金生活者等の声も聴き、福祉の充実を。

県会自民党 田中 三津彦 議員



- 分散型国家・日本の実現
- 100年に一度の好機を確実に活かすための具体策
- 「福井美食フェア」
- 新幹線開業プロジェクトチームの設置

新幹線県内延伸にあわせて、福井の魅力をもっと大胆にアピールしましょう。

県会自民党 松崎 雄城 議員



- 脱炭素社会・エネルギー政策
- 農業・水産業の諸課題
- 空き家対策
- 観光政策・学術拠点

ハイブリッド車の普及を含む省エネ推進や民宿再生に向けた支援を提言しました。



審議の様子は
YouTubeを
ご覧ください

一般質問

無所属 細川 かをり 議員



- ・観光施策
- ・交通体系の整備
- ・今後の自治体

舞若道四車線化と新幹線敦賀以西整備は防災上急ぐべき。関西の世論喚起を!

民主・みらい 渡辺 大輔 議員



- ・強度行動障がい
- ・子の看護休暇の拡充
- ・ヤングケアラー調査を踏まえて
- ・発達障がい児・者への就労支援

ヤングケアラー、強度行動障がい者などへの支援策を求めました。

県会自民党 長田 光広 議員



- ・県民衛星「すいせん」
- ・県産材の利用拡大
- ・丸岡高校の魅力アップ
- ・DXの推進

宇宙・航空産業がいよいよ。子ども達が
立志飛躍できる福井を実現します!

新型コロナウイルス 感染拡大防止のための議会運営にご協力ください

- 議事堂入口にサーモカメラを設置しています
- マスク着用・入室前手指消毒・体調不良時の入室自粛にご協力ください
- 会議中、換気のため定期的に休憩を入れています
- 傍聴の際は、体調の確認、傍聴席の間隔をあけて着席を依頼しています

予算決算特別委員会

県会自民党 力野 豊 議員



- ・敦賀港港湾計画の改訂

港の文化や魅力を感じる情報発信・カフェ・物販・ギャラリー・修学旅行対応の施設整備を!

民主・みらい 西畑 知佐代 議員



- ・県政全般

「再エネ活用 地域振興プロジェクト」を通じて事業化を進めてほしい。

県会自民党 田中 宏典 議員



- ・県政全般

新幹線、原子力、知事の覚悟を持った行動を求め!

予算決算特別委員会では、細川 かをり議員、兼井 大議員、清水 智信議員、野田 哲生議員、大森 哲男議員、西本 正俊議員も質問を行っています。

代表質問、一般質問を行った議員は、この欄には掲載していませんが、質問項目や審議の様子は、議会ホームページやYouTubeでご覧になれます。

◆本会議・委員会の傍聴のお知らせ

本会議の傍聴は、当日の先着順です。議事堂2階の傍聴席入口前で傍聴券を受け取り、入場してください。傍聴席には、質疑等の内容を文字データでお知らせするモニターを配置しています(代表質問および一般質問)。

委員会の傍聴は、各委員会開催日の3日前(土・日・祝日を除く)の正午までに申込みをしてください。傍聴希望者が定員を超えたときは抽選となります。

詳細は、福井県議会のホームページをご覧ください。
HP : <https://www.pref.fukui.lg.jp/gikai/>

◆2月定例会 会期日程予定

2月14日(月)	開会
2月16日(水)	代表質問
2月21日(月)・22日(火)	一般質問※
2月28日(月)	常任委員会(総務教育)
3月1日(火)	常任委員会(厚生)
3月2日(水)	常任委員会(産業)
3月3日(木)	常任委員会(土木警察)
3月10日(木)・11日(金)	予算決算特別委員会※
3月16日(水)	閉会

※TV実況中継を行います。
2月21日 10:00~11:00、14:55~16:20(福井放送)
3月10日 10:00~11:00、15:00~15:30(福井テレビ)

常任委員会

総務教育常任委員会

福井県証紙条例等の一部改正について」などの4議案について審査を行い、原案どおり可決しました。

また、請願の審査も行い、「心や環境面のケアを必要とする子どもたちのための人員の増員に関する請願」、「学習支援を必要とする子どもたちのための支援員の配置に関する請願」について不採択と決定しました。

所管事務の調査では、「不登校、いじめに対応する道徳教育」、「嶺南地域の特別支援教育」、「核燃料税の活用」、「未来協働プラットフォームふくい」、「第4次福井県男女共同参画計画（仮称）の骨子案」、「福井城址活用に係る検討状況」、「令和4年度以降のえちぜん鉄道への支援」、「北陸新幹線敦賀以西の機運醸成」などについて議論しました。



福井城址周辺に人が集うイメージ（福井市 中央公園）

厚生常任委員会

「福井県自転車の安全で適正な利用に関する条例の制定について」の議案について審査を行い、原案どおり可決しました。

また、請願の審査も行い、「地域の子どもの居場所を増やすための支援活動の推進に関する請願」、「遺骨混じりの土砂の使用に関する請願」について不採択と決定しました。

所管事務の調査では、「再生可能エネルギー」、「第3期福井県特定鳥獣保護計画の改定」、「ごみの発生抑制策」、「不法投棄の厳罰化」、「県立病院の経営」、「子育て支援」、「ヤングケアラーの調査方法と周知方法」、「災害時における保育施設の休園基準」などについて議論しました。



クリーンウォーキングinあわら市の様子

産業常任委員会

「指定管理者の指定について（福井県立艇庫）」、「恐竜博物館展示工事請負契約の締結について」の2議案について審査を行い、原案どおり可決しました。

また、請願の審査も行い、「政府の新型コロナ禍での米価格暴落対策が皆無の中自治体独自の稲作農家への直接支援策を求める請願」について不採択と決定しました。

所管事務の調査では、「六呂師高原活性化構想中間（案）」、「原油価格の高騰」、「人手不足の業種におけるDXの導入」、「福井県第二種特定鳥獣管理計画改正（ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル）の骨子案」、「越前がに漁」などについて議論しました。



産業常任委員会 「ふくいDXオープンラボ」視察の様子

土木警察常任委員会

「福井県公安委員会等手数料徴収条例の一部改正について」、「指定管理者の指定について（敦賀港鞠山南地区多目的国際ターミナル）」の2議案について審査を行い、原案どおり可決しました。

所管事務の調査では、「高齢者の運転免許の実車試験および安全運転サポート車限定免許」について調査を行うとともに、「来日外国人の犯罪対策」、「SNSによる個人情報漏えいの危険性についての中高校生など若年層への周知」、「暴力団からの離脱や社会復帰支援」、「敦賀港港湾計画」、「豪雪地帯対策特別措置法」、「今冬の大雪対策」、「福井県住宅・宅地マスタープラン改定の骨子案」、「福井港丸岡インター連絡道路」などについて議論しました。



敦賀港鞠山南地区の状況



本委員会に付託された令和3年度福井県一般会計補正予算などの7議案について審査を行った結果、原案のとおり可決しました。審査の過程であった主な質問や意見は次のとおりです。

○北陸新幹線について

敦賀以西の整備について、今後どう取り組んでいくのかただしたのに対し、「北陸新幹線は、交流人口の増加や大規模災害発生時の移動に対する影響の軽減、東京に集中する経済構造の是正等、関西地域に大きな効果をもたらす。北陸への効果だけでなく、関西目線での運動に切り替えていくことが大事であり、整備促進に向けた運動を盛り上げていきたい」との回答がありました。

また、令和5年度の着工に向けては、来年度の概算要求、年末の予算決定などスケジュールがタイトであり、これまでとは違う異次元の活動が必要ではないかとただしたのに対し、「活動回数や内容を充実させながら運動量を上げていく。何よりも政治力の結集が重要であり、沿線10都府県や議会、経済界等を巻き込んで前に進めるため努力していきたい」との回答がありました。

○嶺南Eコースト計画、共創会議について

嶺南Eコースト計画について、原子力リサイクルビジネスは今後何十年と続く事業であり、原子力政策を進める上でも重要であることから、国の役割をどのように求めていくのかただしたのに対し、「今年度、具体化に向けてFS調査を進めており、電力事業者を含む実務者レベルでのタスクフォースを立ち上げた。来年度は国や地元の経済団体も入って様々な観点から議論をしていきたい」「全国初の取組であり、財政的な支援を求めるとともに合理的な規制基準の創設等においても国の全面的な協力を求めていきたい」との回答がありました。

また、共創会議について、案件が広範に渡り具体性に欠けている印象があることから、国家プロジェクト級の事業を国に提案し、国の主体的な関与を引き出すべきではないかとただしたのに対し、「原子力リサイクルビジネスのほか、敦賀港を活用した水素・アンモニアのサプライチェーンや嶺南地域全体をカバーするスマートグリッドの構築等を提案し、国の積極的な関与を求めている」との回答がありました。

さらに、廃炉を進めていくためには一定の原子力発電所が必要であり、共創会議の前提として20年から30年後の原子力発電の状況等、新增設やリプレースも含め、将来の原子力政策の方向性が明確に示されていない状況では国の提案を評価できないのではな

いかとただしたのに対し、「新しいエネルギー基本計画では、原子力について、2050年に向けて必要な規模を持続的に活用するという内容にとどまっている。どの程度の規模が必要なのか、どのような道筋で実現していくのかを明らかにするよう国に求める一方、共創会議での議論は進めていく必要があると考えている」との回答がありました。

○コロナ対策について

新型コロナウイルス感染症発生から約2年が経過する中、経済を止めずに感染防止を行う有効な方策についてただしたのに対し、「国は、ワクチン・検査パッケージも含め、感染拡大期においても行動制限を緩和し、できる限り社会経済活動を維持していく方針である。ワクチン・検査パッケージについては、まだ感染拡大期に運用された実績がないことから、方策については今後も模索していく必要がある」との回答がありました。

○子育て支援策について

子育て支援策に核燃料税を充当するにあたり、立地市町との協議結果についてただしたのに対し、「少子化対策の一部に核燃料税を充てることは、原子力についての県全体での理解を深めるという点でも意義があることを立地市町に丁寧に説明した」との回答がありました。

○女性活躍推進について

女性活躍を推進するにあたり県の認識をただしたのに対し、「なりたい自分やかなえたい夢を実現し活躍できる社会にするため、女性一人一人が自分の幸せを選択できるような支援策を計画の中で位置づけて進めていきたい」との回答がありました。

○その他

このほか、税制改正大綱および予算編成大綱の県の来年度予算編成への影響と対応、企業版ふるさと納税の活用、拉致問題解決への取組、こども宅食の推進、中小企業への支援、デジタルマーケティングの取組、にぎわい創生のまちづくり、敦賀港港湾計画の改訂、公有財産の活用と処分など広範多岐にわたり、理事者の見解と対応をただしました。

特集 子育て支援について意見交換会を開催しました

県議会では広報広聴活動の一環として、さまざまな分野で活躍されている県民の皆さんとの意見交換会を行っています。

今回は10月28日に、越前市地域子育て支援センターの利用者や職員の皆さんから、子育て家庭への支援策や男性の育児参加などについてご意見を伺いましたので、ご紹介します。

なお、詳しい内容は福井県議会ホームページに掲載していますのでご覧ください。

県議会広報会議 西畑 知佐代副会長、西本 正俊委員、西本 恵一委員、山浦 光一郎委員
越前市地域子育て支援センター 利用者5名、職員3名（ピノキオ、フォルマシオン）



◎子育て家庭への支援策について

- (委員) 子育て家庭が必要としている子育て支援について、ご意見をお聞かせください。
- (利用者) 家の中では、親にストレスが溜まったときにストレスのやり場がなくて困っている。市民プラザたけふ内の「てんぐちゃん広場」のような、子どもと一緒に掛けられる場所を作っていただくとありがたい。
- (利用者) 急な申込みでも引き受けてもらえるなど、子どもの「一時預かり」が利用しやすいといい。私は夫の転勤で福井県に来たので、自分が病気になったときに頼る人がなく不安だ。
- (利用者) 私たちはInstagramなどのSNSをみて情報を得ることが多いので、SNSを利用して情報を発信すると、より若い世代にも伝わるのではないか。
- (センター) 働きに出たいと思い、保育園に子どもを預けようとしても、行政が設けている要件に合わず、預けられない方がいる。預けたいと思っている保護者の希望が認められるように努めていただきたい。
- (センター) 保育士が不足していることも影響しているのではないか。保育士のなり手が少ないことも問題だと感じている。また、休みが取りにくいなどの理由から、働きたくても子育てとの両立ができないという声もある。

◎男性の育児参加について

- (委員) 最近のお父さんは一昔前に比べれば育児に参加しているようですが、いかがですか。
- (利用者) 夫から、「君は働いていないのだから家の中のことはちゃんとやってね。」という無言の圧力を感じることもあり、肩身が狭い思いをすることがある。
- (利用者) まずは男性の意識が変わらないといけない。そのためには、まず会社内で理解が進むことが大事だ。パパ世代よりもっと上の世代、50～60歳代の人考え方が変われば、パパ世代が育児を取りやすくなるのではないか。
- (利用者) せっかく父親が育休を取って家にいても、子育ても家事もしないのでは困る。父親に対する研修があると良い。

「福井県議会だより」へのご感想をお聞かせください。

福井県議会ホームページの「福井県議会だよりアンケート」のページから、ご感想、ご意見を願います。



発行 福井県議会広報会議

〒910-8580 福井市大手3丁目17-1

福井県議会 議会局総務課

電話：0776-20-0605 FAX：0776-20-0674

HP：https://www.pref.fukui.lg.jp/gikai/

Facebook：https://www.facebook.com/fukuikengikai